台風に対する農作物の技術対策

令和６年８月５日

利根沼田農業事務所

台風の最新情報に注意するとともに、農作物や農業施設の管理について対策を徹底してください。

**Ⅰ　共通事項**

１　事故防止の観点から、台風接近時のほ場見回りは避け、大雨や強風が収まってから行うこと。

２　局地的な大雨が予想され、ほ場が冠水する恐れもあるので、速やかに排水ができるように備えること。これまで冠水したことのある地域については、前例を参考にして重点的な対応を図ること。

３　河川及び用水の増水並びに土砂災害の恐れがあるところでは、作業の安全確保を第一としつつ、適切に対応すること。

４　薬剤散布にあたっては、農薬ラベルに記載されている使用基準や注意事項を必ず守り、正しく使用すること。

**Ⅱ 普通作物**

**１　水稲**

　（１）事前対策

　　ア　用排水路の点検・整備を行い、ほ場への土砂等の流入を防止する。

　　イ　風雨による影響を軽減させるため、台風接近前に湛水状態（深水）としておく。

　　ウ　育苗中の苗が冠水しないよう留意する。

　（２）事後対策

　　ア　台風通過後は、風がやむまで湛水状態としておく。

　　イ　冠水したほ場は速やかに排水するとともに、土砂が流入した場合も排出し、埋没した稲の回復を図る。

　　ウ　移植直後で被害が発生した場合は、状況に応じて植え直しを検討する。

　　エ　育苗中の苗に泥等が付着した場合は、早急に清水で洗い流す。

**２　麦類**

　（１）事前対策

　　ア　台風接近前に収穫可能な場合は、極力収穫する。

　　イ　大雨に対応できるよう、排水溝の点検・整備を行う。

　（２）事後対策

　　ア　ほ場内の停滞水は速やかに排水するとともに、土砂が流入した場合も排出する。

　　イ　成熟状況や天候を勘案し、早めに収穫する。なお、倒伏した部分は、状況に応じて別収穫とし、品質低下を防ぐ。

**Ⅲ　工芸作物**

**１　コンニャク**

　（１）事前対策

　　　　土砂の流出入防止のため、必要に応じて土のうなどを設置する。

　（２）事後対策

　　ア　水、土砂の流入は、湿害や根腐病の発生を助長するため速やかに排水させる。

　　イ　作土が流失し、種いもや根が露出した場合は、早急に土寄せを行う。

**２　タラノキ**

　（１）事前対策

　　　　土砂の流出入防止のために、必要に応じて土のうなどを設置する。

　（２）事後対策

　　　　強風により倒伏した場合は、新梢が屈曲しないうちに出来るだけ早めに手直しする。

**Ⅳ 野　菜**

１　事前対策

 （１）ハウスの被覆資材などで傷んでいる箇所は、風雨が吹き込まないように修復しておく。また、緩んでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

 （２）湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、土のう積み等の防水対策を図る。

 （３）露地野菜の支柱や誘引線、ほ場まわりの防風網はあらかじめ補強しておく。

　（４）果菜類等で収穫期に達しているものは、やや早めに収穫し、被害を最小限に抑える。

　２　事後対策

 （１）ハウスやほ場に冠水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。

 （２）ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。

 （３）茎葉の損傷は、湿度の上昇により病害の発生が助長されるので、適用農薬を散布する。なお、農薬散布にあたっては使用基準、特に収穫前日数を必ず確認する。

 （４）天候回復後、草勢回復のために追肥や葉面散布を行う。

　（５）排水後、土壌表面が固くしまっているほ場では、土壌が乾燥して、ほ場に入ることが可能になったら、浅く中耕する。

 （６）果菜類では、被害を受けた果実を摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。

　（７）露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすとともに、支柱等へ誘引を行う。またネギが倒伏した場合も丁寧に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。

 （８）育苗中や生育中の果菜類などでは、台風通過後に天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また、遮光ネットを利用して、強光による葉焼けを防止する。

 （９）収穫した野菜は、傷み等がないかよく確認しながら調製作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生防止に努める。

**Ⅴ 果　樹**

１　事前対策

（１）多目的防災網や防風ネットの緩んでいるワイヤ－やひもは張り直し、ネットがずれたり、飛ばされないように補強する。また、ネットが破れている部分を補修する。

（２）トレリスは、隅柱や中柱の横ぶれ、架線の張り等を点検し、必要に応じて締めなおす。

（３）ブドウやオウトウなどの雨除け施設は、ビニールが飛ばされないように補強するか、場合によっては除去する。

（４）幼木やわい性台リンゴ樹は、支柱や添え木を点検し、不備な場合は支柱や縄（ひも）を取り替えるなど補強を行う。

（５）高接ぎした樹では、接いだ部分から折れやすいので添え木をする。

（６）園内に水が溜まらないように排水溝を掘るなど、十分な排水対策を行う。

　（７）ウメなど収穫が可能な品目については、台風接近前に収穫しておく。

２　事後対策

（１）果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬

　　剤を散布する。なお、農薬散布にあたっては使用基準、特に収穫前日数を必ず確認する。

（２）滞水している園では、速やかに排水溝を掘るなど排水に努める。

（３）倒伏や傾いた樹であっても、回復可能なものは出来るだけ早く起こし、盛土、支柱で固定するとともに、地下部とのバランスをとるために適宜枝の切りつめる。

（４）枝が裂けた場合は、針金、ボルト等で固定する。回復不能な場合は切り落とし、切り口に塗布剤を塗る。

（５）枝の損傷や落葉が甚だしい樹では、果実肥大や品質が低下するので、再度着果数の見直しを行う。

（６）仕上げ摘果は、果実の傷や損傷程度が明らかになってから行う。なお、軽度な傷果は、樹勢バランスを考慮して残し、極端に強い摘果は避ける。

（７）樹勢回復のための追肥は、二次伸長、不時開花を防ぐために被害直後には行わず、　　礼肥の時期となってから樹勢に応じて施用する。

**Ⅵ　花　き**

１　事前対策

 （１）ハウスの被覆資材など傷んでいる箇所は、風雨が吹き込まないように修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

（２）湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、土のう積みや雨樋の清掃による詰まり防止等の防水対策を図る。

２　事後対策

（１）冠水したほ場では、速やかな排水に努めるとともに、肥培管理を的確に行い生育の回復を図る。

（２）切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き、天候の回復を待って浅く中耕する。

（３）枝物類・切り花類では、強風によって折損した茎葉の整理と適用薬剤の散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

（４）被覆資材、支柱等栽培施設の点検・修復を行う。キクなどの電照施設においては、速やかに作動状況の点検を行い、電照処理等が確実に行われるよう確認する。

**Ⅶ 畜　産**

**１　飼料作物**

　（１）事前対策

ア　草地や飼料畑に水や土砂が流入する恐れがある場合は、冠水防止や排水対策を実施する。

　　イ　飼料イネ・飼料用米については、水稲の項を参照。

（２）事後対策

　　ア　飼料用トウモロコシ

 　 　水田に栽培している場合は、排水対策が重要となる。降雨のためほ場に滞水してい る場合は、速やかに排水溝を設けて排水を行い、湿害による生育不良を最小限にくい　　止める。

　　イ　ソルガム

　 　水田に栽培している場合は、排水対策を徹底する。ほ場に滞水した場合は、排水溝　　を設けて速やかに排水する。

　　ウ　牧草類

 　　台風の風による被害は比較的少ないものと考えられるが、生育が進み草丈が伸びて いるものは倒伏が心配される。この場合は速やかに刈り取りを行い、品質を見ながら　　利用する。

**２　畜舎及び付属施設等**

（１）事前対策

　　ア　畜舎の風雨被害を防止するため、屋根や窓、入り口の点検を行い、必要があれば　　　補修や補強等を実施する。雨や風が畜舎内に吹き込まないように戸締まりを行う。

　　イ　堆肥舎やハウスかく拌処理施設への風雨被害を防止するため、施設の事前点検を　　　実施し、窓や入り口は戸締まりを行う。雨水の施設内流入や尿汚水が流出しないよ　　　う施設及び堆肥の管理を行う。

　　ウ　飼料庫、農業機械・器具格納庫

 　　風雨被害を防止するため点検を行い、必要があれば補修や補強を実施する。飼料、　　農業機械・器具は雨にさらされないよう管理する。

　（２）事後対策

　　ア　雨が畜舎内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行って畜舎内を乾燥状態に保つ。

**Ⅷ　養　蚕**

１　事前対策

　　　簡易ハウス等は補強を行い、台風被害を未然に防ぐ。

２　事後対策

　（１）冠水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を図るとともに、病害虫の異常発生に注意し、防除に努める。

　（２）桑葉が損傷した場合は、葉質が劣化しやすいため、貯桑管理に注意し、給桑回数を増やす。

　（３）壮蚕飼育にあたっては、適正な蚕座面積、除湿、通風換気に注意し、蚕座内環境の向上に努める。

**Ⅸ　作業者の暑熱対策**

　１　高温による影響

　　　熱中症は以下のような症状を段階的に呈する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 分類 | 症　　　　　　状 | 対　応 |
| Ⅰ度 | ●　めまい、失神　　「立ちくらみ」の状態（熱失神とも呼ぶ）。●　筋肉痛、筋肉の硬直　　筋肉の「こむら返り」のことで、その部分の痛みを伴う。●　大量の発汗 | ●　すぐに涼しい場所へ移り体を冷やし、水分を与える。●　誰かがそばに付き添って見守り、改善しない場合や悪化する場合は病院へ搬送する。 |
| Ⅱ度 | ●　頭痛、気分の不快、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、体がぐったりする、力が入らないなど。 | ●　自分で水分・塩分を摂れないときは、すぐに病院へ搬送する。 |
| Ⅲ度 | ●　意識障害、けいれん、手足の運動障害　　呼び掛けや刺激への反応がおかしい、体にガクガクと引きつけがある、まっすぐに歩けないなど。●　高体温　　体に触ると熱いという感触。 | ●　すぐに病院へ搬送する。 |
|

２　高温時の対策

　（１）日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする工夫を行う。

　（２）水分をこまめに取り、汗で失われた水分を十分に補給する。大量の発汗がある場合は、スポーツ飲料などの塩分濃度0.1～0.2％程度の水分を摂取する。

　（３）帽子の着用や汗を発散しやすい服装にする。

　（４）作業場所には日よけを設け、できるだけ日陰で作業するように努める。

　（５）屋内の作業では、遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が急激に上昇しないようこころがけるとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。

　（６）気温の状況に応じ、適度に扇風機やエアコンを使用する。

　（７）一人作業は極力避ける。やむを得ない場合は、家族や周囲の人に作業予定を伝えておく。

　　※ 農林水産省ホームページ（熱中症対策ＢＯＯＫ）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\_kikaika/anzen/attach/pdf/nechu-44.pdf

※ 農林水産省ホームページ（農作業中の熱中症対策チェックシート）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\_kikaika/anzen/attach/pdf/nechu-43.pdf